

## 第2回 野川流域連絡会全体会 開催報告

1. 開催日時：平成23年6月1日(水) 18時00分～20時30分
2. 開催場所：調布市文化会館「たづくり」12階大会議室



第5期 第2回 野川流域連絡会全体会 会議風景

平成23年6月1日(水)18時より、調布市文化会館「たづくり」大会議室において、第5期第2回野川流域連絡会全体会を開催しました。

第5期委員50名のうち、都民委員8名および団体委員9名、行政委員14名の31名が出席しました。議事は、(1)第5期前期の活動報告、(2)話題提供として、事務局長より「津波による水位変化について」、座長より「野川と防災について」、(3)野川と防災について参加委員が3班に分かれてワークショップを行いました。地震発生時の状況や防災への取り組み、大きな地震を体験したことにより明らかになった様々な事象への問題提起などについて活発な意見交換が行われました。

### 3. 議事内容

#### (1) 第5期前期の活動報告

活動報告に先立ち、4月1日付の人事異動で変更のあった行政委員の紹介を行いました。水環境分科会、生きもの分科会、なっとく部会より、第5期前期の活動報告がありました。

#### <水環境分科会の活動報告>

- ・7回開催した定例会では、各区市の都市計画マスタープランに位置付けている野川等に係わる施策等の報告を頂いた他、「世田谷区の豪雨対策」、「多自然川づくり講演会(九州大学島谷教授DVD)」、東京都河川部より「豪雨対策と多自然川づくり」について、座長より「雨水の流域での貯留浸透」の説明を受けて勉強会を開催した。
- ・韓国の「川の日」安東大会に招待され座長、まとめ役、事務局が参加した。また、韓国の優勝チームを野川公園付近の野川に案内し、野川や野川流域連絡会の活動等について

説明した。

- ・「野川の通信簿」は地域住民が調査した情報を行政の川づくりに反映出来ないかというコンセプトで始まり、第8回目を小金井市立南小学校6年生80名に参加してもらい開催した。
- ・野川の水不足、瀬切れの解消、安定水量の確保の1つとして恋ヶ窪用水の復元を国分寺市に提案してきた中で、資料集の作成や「国分寺市緑の基本計画」の見直しについて国分寺市副市長と意見交換を行いました。平成23年1月に見直し計画が策定され砂川用水、恋ヶ窪用水の景観、親水性にも配慮した復元を目指すとされました。

#### <生きもの分科会の活動報告>

- ・5回の定例会開催と夏季、冬季に生きもの観察会を実施した。
- ・生きもの観察会は10年間継続して同時期に行っており、採取・記録した観察資料は貴重な資料となっている。ほたる川ではホトケドジョウが確認された。
- ・「ほたる川」では松丸大杭を打ち込む補修作業を実施した。
- ・冬季の観察会では参加者へアンケートを実施した。
- ・草刈りについて様々な意見、要望、苦情がある中で、安全面、景観面、生きものの面等といった多様な側面から討議を行い、今後どのように棲み分けていくか検討している。

#### <なっとく部会の活動報告>

- ・なっとく部会発足の経緯について概略を説明。
- ・なっとく部会は2回開催され、河川情報図（1巡目）の作成、河川情報図のGIS情報化、フィールドワーク2巡目の方法について議論した。更になっとく流量調査について流量調査の体制や調査結果について議論した。
- ・第5期前期ではなっとく流量調査を3回実施した。通算17回となった。4回目の調査は地震後の影響により中止した。
- ・流量調査の結果を見ると、平成22年は秋に降水量が多く水量も多かったが、年明け以降、ほとんど降水がなく、野川本川でも水涸れ現象が起きた。

#### (2) 話題提供

- ・「津波による水位変化について」 事務局長

東日本大震災発生時に観測された東京湾各地の津波の高さの報告と、新小名木川水門における潮位変化状況の報告がありました。また、同水門の防潮堤における計画津波高と今回観測された最高津波高を比較し防潮堤の安全性について説明。また東京湾は地形的に津波が増幅されにくい形状になっているとの説明がありました。

- ・「野川と防災について」 座長

地震災害時の野川の役割として水の供給と空間の提供があげられる。水の供給として生活用水、消防用水にも使用できる湧水の価値は重要である。空間の提供としては、安全な広場が上流から下流に至るまで沢山あることから安全な一時避難場所、避難経路になれる可能性がある。火災発生時には野川が緩衝帯として機能する可能性もある。これらの事を評価していくことが必要である。

野川の水防と水守については、これまでの活動の中で豪雨と濁水という水防のこと、環境保全的な部分の水守を議論してきました。水防に関しては流出抑制、一時貯留、地下

浸透、水質改善、合流改善、水守に関しては雨水浸透、湧水保全、緑地、崖線の保全、用水路の再生といったこれまで議論してきたことを改めて防災という大きな枠の中で、もう一度全体の組み立てとして見直す必要があるのではないかと。九州の樋井川で行われている流出抑制対策や雨水利用促進等について紹介がありました。日本建築学会の雨水ガイドラインが目指すものの紹介がありました。

### (3) 野川と防災についてワークショップ

出席委員が3班に分かれて、野川と防災について自由に意見の交換を行いました。

#### 〈1班〉

- ・ 狛江市は万年堀の倒壊はあったものの市民に被害はなく大きな被害は無かった。
- ・ 調布市は大きな被害は無かった。
- ・ 世田谷区では大谷石の堀や灯籠の倒壊、屋根瓦の崩落等が多く見られた。
- ・ 世田谷区が一番被害が大きく、地形的に狛江市、調布市とは違いがあるようだ。
- ・ 原子力発電所事故による放射能に対する行政の対応状況の報告。
- ・ 野川に架かる橋梁については目視調査により被害は確認されなかった。
- ・ 橋梁の強度や耐震性等、どのような設計基準になっているのか知りたい。
- ・ 防災計画の見直しを行政だけでなく町会でも始めている。

#### 〈2班〉

- ・ 各委員の地震発生時の状況等の報告。
- ・ 国分寺から小平にかけて屋根瓦が落ちているが、落ち方を調べると礫層に関係してくるのではないかと。
- ・ 世田谷通りや多摩堤通りなど普段から交通渋滞の激しいところで渋滞中に地震が発生したら大丈夫なのか不安である。
- ・ 野川は避難経路として非常に良いと感じたが、夜間停電時に問題なく歩くことが出来るのか問題提起があった。
- ・ 想定外でどのような事が起こり得るのか検証し、その上でどのように対応していくのか考える必要があるのではないかと。
- ・ 火災発生時の消火用水確保のために玉川上水の活用の提案。

#### 〈3班〉

- ・ 交通渋滞や遠距離であるために帰宅が困難であった。また、携帯電話が繋がらず情報が伝達出来なかった。
- ・ 今回の地震は金曜日の午後であったが、曜日によって人の動きが違うのではないかと。水曜日や木曜日であったなら無理して帰宅しなかったのではないかと。
- ・ 震度5弱を体験したが、より大きな震度ならばどうなるのか不安である。
- ・ 地震によって大規模に停電した時は相当な問題が発生するのではないかと。
- ・ ライフラインの確保、特に水の確保が重要になる。
- ・ 下水道に被害が出た。
- ・ 降雨による放射能の河川への影響が懸念される。

#### (4) まとめ

座長からこの度の大震災に於いては震度5弱を経験し様々な事が分かった。情報をどうするか、野川に関しては災害時の避難所や避難ルートとしても重要であることから、防災計画の見直しを野川についても改めて、やれることをきちんとやらなければならないとの発言がありました。

#### (5) 報告事項・今後の予定

事務局より、以下の内容について説明がありました。

- ・平成23年度野川に関する主な工事予定
- ・第9回野川の通信簿の開催案内
- ・第5期後期の活動予定の案内